

八ガイ書

第一章一ダリヨス王の二年六月其月の一日にエホバの言預言者ハガイによりてシャルテルの子ユダの方伯ゼルバベルおよびヨザダクの子祭司の長ヨシユアに臨めりいはくニ萬軍のエホバかくいひたまふ是民はエホバの殿を建べき時期未だ來らずといへりニエホバの言また預言者ハガイによりて臨めり曰く四此殿かく毀壞をれば汝等板をもてはれる家に居るべき時ならんや五されば今萬軍のエホバかく曰たまふ汝等おのれの行爲を省察べし六汝らは多く播ども收入るところは少く食へども飽ことを得ず飲ども満足ことを得ず衣れども暖きことを得ず又工價を得るものは之を破れたる袋に入る七萬軍のエホバまた曰たまふ汝等おのれの行爲を省察べし八山に上り木を携へ來て殿を建てよさすれば我これを悦び又榮光を受んエホバこれを言ふ九なんぢら多く得んと望みたりしに反て少かりき又汝等これを家に携へ歸りしとき我これを吹はらへり萬軍のエホバいひたまふは何故ぞや是は我が殿破壞をるに汝等おのれの己の室に走り至ればなり一〇この故になんぢらの上の天は雨露を止め地はその産物を止めたりニ且われ地にも山にも穀物にも新酒にも油にも地の生ずる物にも人にも家畜にも手のもるもの工にもすべて毀壞を召きかうむらしめたりニシャルテルの子ゼルバベルとヨザダクの子祭司の長ヨシユアおよびその残れるす

べての民ともに其神エホバの聲と預言者ハガイの言に聽したがへり是は其神エホバかれを遣したまひしに因る民みなエホバの前に敬畏たりニ時にエホバの使者ハガイ、エホバの命により民に告て曰けるは我なんぢらと偕に在りとエホバ曰たまふと二四エホバ、シャルテルの子ユダの方伯ゼルバベルの心とヨザダクの子祭司の長ヨシユアの心およびその残れるすべての民の心をふりおこしたまひければ彼等來りて其神萬軍のエホバの殿にて工作を爲り五これダリヨス王の二年六月二十四日なりき第二章一七月其月の二十一日エホバの言預言者ハガイによりて臨めり曰くニシャルテルの子ユダの方伯ゼルバベルとヨザダクの子祭司の長ヨシユアおよびその残れる一切の民に告よ三なんぢら遣れる者の中この殿の從前の榮光を見しものは誰ぞや今これを如何に見るやかの殿にくらぶれば是は汝らの目に何もなきが如く見ゆるにあらずや四エホバ曰たまふゼルバベルよ自ら強くせよヨザダクの子祭司の長ヨシユアよ自ら強くせよエホバ言たまふこの地の民よ自らつよくしてはたらけ我なんぢらとともて在り萬軍のエホバこれを言ふ五汝らがエジプトよりいでし時わがなんぢらに約せし言およびわが靈なほなんぢらの中に留れり懼るるなかれ六萬軍のエホバかくいひたまふいま一度しばらくありてわれ天と地と海と陸とを震動はん七又われ萬國を震動はんまた萬國の願ふところのもの來らん又われ榮光をもてこの殿に充滿さん萬軍のエホバこれを言ふ八銀も

我ものなり金もわが物なりと萬軍のエホバいひたまふ九この殿の後の榮光は從前の榮光より大ならんと萬軍のエホバいひたまふこの處においてわれ平康をあたへんと萬軍のエホバいひたまふ○ダリヨスの二年九月二十四日エホバのことは預言者八ガイによりて臨めり曰くニ萬軍のエホバかく曰たまふ律法につきて祭司に問ふて曰ふべし三人衣の裾にて聖肉を携へたらんにその裾もしパン或は羹あるひは酒あるひは油あるひは他の食物に捫らばそれらは聖ものとなるや祭司たち答へて曰けるはしからずニ八ガイまたいひけるは屍體に捫りて汚れしもの若これらの物にさはらは其ものはけがるべきや祭司等こたへて曰けるは汚れんニ四ここに於て八ガイ答へて曰けるはエホバ曰たまふ我前此民もかくの如くまた此國もかくの如し又其手の一切のわざもかくのごとく彼等がその處に獻ぐるものもけがれたるものなりニ五また今われ汝らに乞ひこの日より以前すなはちエホバの殿にて石の上に石の置れざりし時を憶念べしニ六かの時には二十舛もあるべき麥束につきてわづかに十を得また酒榨につきて五十桶汲んとせしにただ二十を得たるのみニ七汝が手をもて爲せる一切の事に於てわれ不實穂と朽腐穂と雷を以てなんぢらを撃りされど汝ら我にかへらざりきエホバこれを言ふニ八なんぢらこの日より以前を憶念みよ即ち九月二十四日よりエホバの殿の墓を置し日までをおもひ見よニ九種子なほ倉にあるや葡萄の樹無花果の樹石榴の樹橄欖の樹もいま

だ實を結ばざりき此日よりのちわれ汝らを恵まん○此月の二十四日にエホバのことは再び八ガイに臨めり曰くニユダの方伯ゼルバベルに告よわれ天地を震動んニ列國の位を倒さんまた異邦の諸國の權勢を滅さん又車および之に駕る者を倒さん馬および之に騎る者もおのの其伴侶の劍によりてたふれんニ萬軍のエホバ曰たまはくシヤルテルの子わが僕ゼルバベルよエホバいふその日に我なんぢを取りなんぢを印の如くにせんそはわれ汝をえらびたればなり萬軍のエホバこれを言ふ